

もっと知りたい

武者小路実篤

地域に残る実篤の足跡

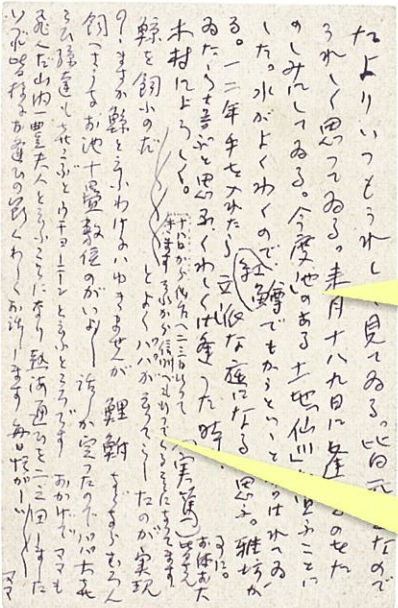
実篤公園

実篤公園の歴史をたどってみましょう。

住みたいところは……

- ✓水のあるところ
- ✓古い土器が見つかるところ
- ✓土筆の生えるところ

というのが、子どもの頃からの実篤の夢。
 終の住処とした仙川の地は、偶然にもその夢をすべてかなえられるところでした。



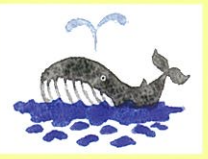
実篤・安子夫人から娘・孫にあてたハガキ
 昭和29(1954)年4月15日

仙川の地を購入することになり、大喜び!

昭和30(1955)年、70歳の実篤は、調布市入間町荻野(現・若葉町)の地を人から紹介されて気に入り、三鷹市牟礼から移り住みました。最寄駅の名前をとって「仙川の家」と呼び、90歳で亡くなるまでの20年間を過ごしました。

…今度池のある土地「仙川」を買うことにした。水がよくわくので、紅鱒でもかうといいと言われている。一、二年手を入れたら立派な庭になると思う。…〈実篤〉

鯨を飼うのだ飼うのだ飼うのだ飼うのだとよくパパ(実篤のこと)が言ってきたのが実現? まさか鯨と言うわけにはゆきませんが鯉、鮎などならむしろ飼えそうなお池十畳敷位のがいよいよ話しが突ったのでパパ大喜び。孫達も喜びぶとウチヨーテンと言うところですよ…〈ママ(安子夫人のこと)〉



実篤公園から見つかった縄文土器のかけら

大昔から人間は、水のあるところのそばに住みます。実篤公園の周りからも、縄文時代の家のあとや、土偶・土器・石器のかけらが見つかっています。

実篤が暮らしていたときも、お孫さんがよく庭で土器のかけらを見つけました。自分ではなかなか見つけられない実篤は、とてもうらやましがったそうです。

公園として開園するときに調査して、一帯は「実篤公園遺跡」と名づけられました。

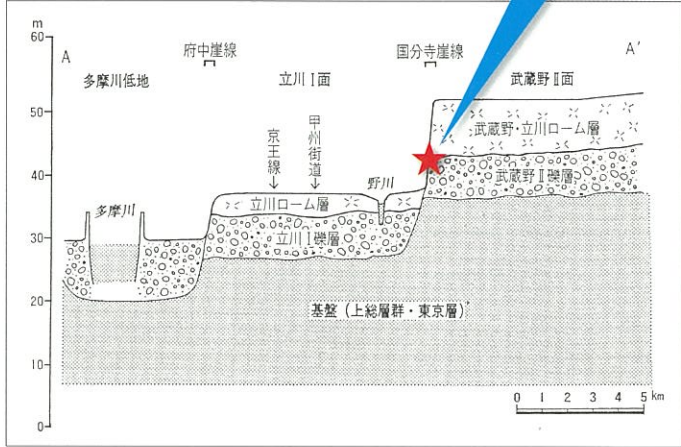


昭和31(1956)年 上の池のほとりで孫たちと

こくぶんじがいせん
国分寺崖線とは…

国分寺崖線とは、大昔に多摩川が地面を削りとってできた地形のこと。立川市から大田区まで続いていて、実篤公園もこの崖線上に位置しているのが急な坂があり、敷地内の高低差は約16メートルあります。

実篤公園はここ



調布市域の地質断面図 (『調布市史』上巻より)

がいせん わ
崖線と湧き水

雨水が土にしみこんで、水が流れやすい小石の地層(礫層)にたどり着くと、水はそこを流れていき、地層がとぎれて崖になったところから湧き出します。これが泉や湧き水と呼ばれるもので、実篤公園の大小2つの池の水源も湧き水です。



湧き水を見る実篤 昭和30年代前半

実篤公園の上の池から水が湧いています。実篤が移り住んだ昭和30年代には、今よりも水量が豊富でした(現在、水源地に木の囲みはありません)。

けいだい
元は神社の境内地

実篤が購入した土地(現・実篤公園)には、江戸時代から続く、伊勢神宮の神様を祀る神社があり、時代によって、神明社や滝坂皇大神宮と呼ばれていました。「神明様の池」(現・上の池)の周りには、よく蛇が出たそうです。

この土地は昔は神社があった。…(略)…僕がここに住むようになった時、祟りがあるという事を言っている人がいる事を聞いたが、僕はそういう事は気にならない質で、母の言った事はいくらか気にするが、他の人の言った事は気にならない。…(略)…祟る力があれば、喜んでくれるだろう位に思っている。なぜかと言えは分譲地になれば池もなくなり、大木も切り払われる事になる。現在、僕は切るにきまっていた大木をいくつか切らないようにしたので、そのお礼もしたわけである。かくて樺や朴の木や、辛夷や、桜の大木を助けた事になる。泉も池も助けたわけだ。元より以前の神社はずっと大きかったにちがいないが、僕が買ったのでいくらか昔の面影がのこせたわけだ。

武者小路実篤『二人の男』二五〇章より



滝坂皇大神宮 平成25(2013)年6月

今では、実篤公園脇に小さな祠を残すのみとなっていますが、昭和初期までは大きなお祭りを催し、近所の子どもたちは楽しみにしていたそうです。



実篤記念館では、地域に残る実篤の足跡を探しています。情報をお持ちの方はお知らせください。